

地区公民館の幅広い活用に向けた検討について

本市では、住民の暮らしや活動の質を高めるため、地区公民館をより幅広く柔軟に活用できる施設とすることをめざして検討しています。

1 背景・目的

- (1) 文部科学省から全国の自治体へ、「地域の実情に合わせて地区公民館を柔軟に運営し、地域の活動が一層活性化する」よう通知があり、現在ある施設を幅広く活用することが求められました。
- (2) 県内でも米子市や倉吉市が、公民館の所管を教育委員会から市長部局へ移し、社会教育だけでなく様々な目的で活用する施設としています。
- (3) 本市においても、市民（広報モニター等）へのアンケートを実施した結果、「民間事業者による営利活動（物資販売等）も可能にすべき」、「幅広い層が利用したくなる取組を」など、地区公民館をより幅広く活用していくことを期待する意見が多い結果となりました。
- (4) 社会教育や福祉、防災など、それぞれの目的に応じて施設を整備し、管理していくことは現実的に難しく、一つの施設を様々な目的で活用していくことが必要と考えています。
- (5) これらをふまえ、地区公民館の「学びの場（社会教育）」や「地域コミュニティ支援」として役割を残しつつ、福祉や防災など、『より多様な目的で幅広く活用できる施設』へと移行することを検討しています。

2 検討（見直し）の方向性

施設の利用制限を緩和し、公民館を利用できる対象範囲（利用者区分・目的）の拡大を検討しています。

目的 地区の枠を超えた合同事業の展開や、民間事業者等への貸出や営利活動など、新しいニーズへ応えることで、新たな地域交流や暮らしが豊かになる取組が促進されるようにします。

- 備考
- (1) 現在と同様、地区内の住民の利用を優先し、空き時間の有効活用などによって、施設を最大限に利用するための変更です。
 - (2) 民間事業者の利用や営利目的などで公民館を利用する際は、施設使用料を徴収します。現在と同様、地域の住民が非営利目的で利用する際は無料とすることで、従来からの公民館利用者の負担増にならないようにします。
 - (3) 詳細な貸出ルールや使用料の設定など、施設の運営に必要な事項については、今後検討していきます。
 - (4) 見直しに伴い、関係条例の改廃や市長部局への施設移管を行います。

○留意事項

- (1) 見直し後も、公民館職員の処遇は変わりません。（これまでどおり市会計年度任用職員として勤務します）
- (2) 施設の管理運営も市が直営で行います。（指定管理者制度を導入するものではありません）

3 見直しによって変更となる点

	変更しない点	変更する点
利用者	地区内の住民が優先して施設を使用することができます。(従来から地区外住民の使用は可能です)	民間事業者の使用や営利活動も可能とします。(従来は、専ら営利の活動は不可でした)
使用料	地区内の住民が非営利目的で施設を使用する際は発生しません。(従来から施設の目的外で使用する場合は発生します)	上記の目的で施設を使用する際は、使用料金を徴収します。
社会教育	教育委員会の責務として、地域での学びの機会(生涯学習事業・各種講座等)を提供します。	「変更なし」
施設管理	施設の管理・運営は市長部局が行います。(平成20年度から市長部局が行っています)	「変更なし」

4 参 考

(1) 検討経過等

- 令和3年4月 佐治地区において地区公民館の役割をコミュニティセンターへ移管して、社会教育が維持できるか検証を開始
(成果等を検証した結果、特に問題ないことを確認)
- 7月 公民館職員とのブロック別意見交換会を実施
- 12月 市民アンケート(市政モニター、LINE)を実施
- 令和4年7月 鳥取市公民館運営審議会、鳥取社会教育委員会からの意見聴取
公民館職員からの意見聴取
- 8月 各地区公民館運営委員(※1)への情報提供
- 9月 市議会(総務企画・文教経済委員会)に報告

※適宜、教育委員会や各種会議において取組報告し、協議していきます。

(2) 今後の予定

- 令和4年度 貸出基準や使用料設定等、詳細な運営ルールについて検討
- 令和5年3月 事業全体像(素案)の作成、周知
- 4年～ 事業全体像(素案)を基に協議
- 令和6年4月～ 幅広い活用の開始

(3) 見直しによって変わる暮らしのイメージ

別添資料

※1 鳥取市公民館条例施行規則(運営委員会)

第4条 公民館事業の円滑な運営を図るため、地区公民館に運営委員会を置く。

2 前項の運営委員会の委員の定数は、原則として20人以内とし、館長がこれを委嘱する。

～見直しによって変わる暮らしのイメージ～

地区公民館は、これまでも様々な形でご利用いただいておりますが、地域によっては、利用頻度が多くない館やほとんど利用されない部屋を持つ館もあります。また、地域の団体による営利目的の利用希望や民間事業者からの利用希望があってもお断りしているケースがあります。

現在の利用者は、今のままご利用いただきつつ、希望に応じてもっと活用の幅を広げることで、施設の魅力や市民の満足度も向上するのではないかと考えています。

そのほか、鳥取市では、目的が限定された専用施設を複数整備するのではなく、一つの施設を多目的に使うことで、財政負担を抑制しつつ効率よく公共サービスを提供していきたいとも考えています。

公民館を活用する幅を広げますが、公民館職員が様々な事業を企画するというより、地域の皆様や関係する事業者が、自らのアイデアを実現できる施設となり、次のような暮らしにつながればいいと思っています。
(あくまでイメージです)

★★公民館での出来事（平日編）

ある朝、公民館前を通りかかると花壇に水やりしながら談笑する老人クラブのメンバー。週末にある花壇コンクールの話で盛り上がっている。「優勝したらまちづくり協議会の活動として加えてもらって、地域全体で取り組みたい。美しいまちをめざそう!」と話している。



公民館の会議室では、公民館職員が企画した、ものづくり講座が開催されている。今年から他地区の住民も参加できるようになったので、これまでと違う顔ぶれだ。

その隣の部屋では、〇〇会社がスマホ教室を開催。使い方の講義だけでなく、機種や契約内容の変更、新規契約も受け付けてくれる。

今の時代、スマホは必需品なので、アドバイスだけでなく、手続きもできるのは助かる。簡単な内容であれば、パソコンのことも教えてくれるらしい。パソコン教室までじゃなくても基礎的なことを若い方に聞けるのは助かる。



ものづくり講座に参加されていた方も途中から参加してきた。参加者同士が話をする中で、スマホ教室に参加された方も、ものづくりに興味津々。次は公民館事業に参加しよう!と話している。

調理室では、料理研究家の●●さんが料理教室を実施。まちづくり協議会役員が地域の魅力再発見として、まち協役員がSNSを通じて依頼して実現した取組で、いつもは公民館で見ない顔ぶれが、地域で採れた山菜やキノコを使った料理に挑戦している。キノコの調理には専門的な知識が要るので、●●さんじゃないと難しいらしい。

受講料はかかるが大丈夫。料理教室で作った山菜おこわ、キノコ料理は自分達で食べるのとは別に、お惣菜として販売するし、教えてもらった調理技術で、今度、▲▲地区であるイベントに出店するので元が取れるのだ。



昼になると、公民館駐車場にキッチンカーや屋台が集まってくる。駅前にある有名ラーメン屋が月に2回だけ出店してくれる。これが目当てで公民館にやってくる方も多い。路線バスが減って駅に行くのも苦労するから、来てくれるのは嬉しい。



キッチンカーの隣では、公民館の近くで起業したカフェの店主が屋台で淹れたてコーヒーを振舞ってPRしている。コーヒー豆の配達も受けてくれるらしい。さっき作っていた山菜おこわを購入して持ち帰る人も何人か見えた。

駐車場1台分の使用料なので格安で出店しやすいだろう。来週は噂を聞きつけたクレープ屋さんが出張販売するみたいで今から楽しみだ。

昼を過ぎると少し人の出入りは収まった。公民館内外で、コーヒーを飲みながら地域の方が談笑している。

公民館前に置かれたベンチは地元の工務店の手作り。無償で提供してくれる代わりに工務店の広告が入っている。大きな木の下にあり、木漏れ日の下で会話が弾んでいる。



午後からは、地域の将棋サークルとコーラスグループが公民館を利用。よく見ると公民館近くのカフェのコーヒーを飲んでいる。聞くと公民館まで配達してくれるらしい。

しばらくすると、地区社協と地域住民の方が来られた。夕方に実施する地域食堂の準備らしい。飛び込みで協力することにした。地域で支え合う取組みとして各地域で広がっているが、体験するのは初めてだ。



夕方が近づき、子ども達が公民館にやってくる。まだ地域食堂には早い…。聞くと週に一度の英会話教室があるらしい。

もちろん月謝は必要だが、送り迎えが必要ないのは保護者にとって嬉しいし、子ども達の好奇心や学力アップにはいいと思う。聞くと保護者グループが話し合っ

地域食堂では、まちづくり協議会や自治会の役員もローテーションで参加されている。地域として、事情を抱える家庭に寄り添い、知り合う場となっている。



さらに今日は、地域の事業所で働く方がマジックを披露してくれた。地域のために何かしたいという思いが集まる場所になっている。



ここはいい地域だと再認識し、子ども達の笑顔を思い出しながら、一日が終わる。

～見直しによって変わる暮らしのイメージ～

地区公民館は、これまでも様々な形でご利用いただいておりますが、地域によっては、利用頻度が多くない館やほとんど利用されない部屋を持つ館もあります。また、地域の団体による営利目的の利用希望や民間事業者からの利用希望があってもお断りしているケースがあります。

現在の利用者は、今のままご利用いただきつつ、希望に応じてもっと活用の幅を広げることで、施設の魅力や市民の満足度も向上するのではないかと考えています。

そのほか、鳥取市では、目的が限定された専用施設を複数整備するのではなく、一つの施設を多目的に使うことで、財政負担を抑制しつつ効率よく公共サービスを提供していきたいとも考えています。

公民館を活用する幅を広げますが、公民館職員が様々な事業を企画するというより、地域の皆様や関係する事業者が、自らのアイデアを実現できる施設となり、次のような暮らしにつながればいいと思っています。（あくまでイメージです）

★★公民館での出来事（週末編）

週末は、まち協が主催する、朝どれ野菜の軽トラ市が開催される。栽培しているのは、地域の高齢者の方で、野菜作りが生きがいになっている。また、地域で採れた野菜だけでなく、地区外のスーパーマーケットが生鮮品の出張販売をしてくれる。車を持たない高齢者が増えてきたので有り難い取組だ。



photo.jp - 1861928

それだけでなく、最近では地域食材を生かしたオリジナル料理も販売されている。料理が好きな大学生サークルが、趣味の延長で取り組んでいる。食材は地元農家が提供して、調理や販売は大学生がやっている。美味しくない日もあるが、楽しみにしている地元住民もいるし、時々、大学生の友達が大量でやってくる。若者との触れあいは、軽トラ市にちょっとした刺激を与えている。



この地区のまちづくり協議会は、「地域防災力の強化」をまちづくりの目標にしている。今日は、隣接する地区と合同で防災訓練がある。地区名は違うけど、隣り合っているので、災害時には助け合った方がいい。実際、自宅からは隣の地区にある公民館の方が近い人もいるのだ。

避難訓練の後、◇◇防災会社が指導してくれて消火器の使い方を習った。消火器も◇◇防災会社が無償で提供してくれて助かる。

◇◇防災会社とは、災害時には、助け合い協定を結んでいる。地域内の事業者とつながっていることが心強い。



備蓄用品の必要性について説明を受けた際、どこで買えばいいのか…といった高齢者の声。すると、その場で缶詰の注文を受け付けしてくれるらしい。商売なのだろうが、防災訓練の場で試食できるし、注文したら、自宅まで配達してくれるとのこと。缶詰は重いので、本当に助かる。更にまとめて買ったら安くしてくれる。



午後になると、「出張ネイルサロン」が開かれた。初めてネイルする行程を見るけど、凄い技術だ。そして、こんなに人が集まるなんて驚き。普段は公民館に訪れない顔が多いし、参加者の年齢層も幅広い。プロにネイルしてもらっただけではなく、プロが技術を教えてくれる教室もある。実験台なのかお試しサービスでネイルしてもらった。

夕方からは、▽▽町内会の子ども会主催のバーベキュー。使っているテーブル、バーベキュー台は、地元工務店と子ども達がDIYで作成した作品らしい。それを知らなかった保護者は、子ども達の成長を喜びつつ、嬉しくてお酒が進んでしまっているようだ。



みんなで楽しんでいると、▲▲地区であるイベントに参加していた料理教室メンバーも合流。イベントでの土産話と、残念ながら余った料理でバーベキューを盛り上げてくれた。残り物とは言え、地元で採れた山菜のおこわは格別においしかった。

子ども達と保護者以外の地域の方が関わる良い機会になっているようだ。子ども達も初めての山菜料理に興味を湧いたらしく、料理教室に行ってみたい！と言い出した。

夜になると、会議室の電気が点いた。まちづくり協議会のメンバーが、■■企業と合同イベントの企画会議をしているので、参加させてもらった。■■企業は、地域貢献として、住民が喜ぶことを模索しているらしい。

イベントを話し合うはずが、隣の地区も巻き込もう。●●料理店の協力もほしいな、あそこの空き家を使えないかな…
どういった地域を描いていくのか？という話に花が咲く。
地域のお店も事業者も地域づくりの一員だ。



明日からも、この公民館を舞台にして、どんな暮らしが展開されるのか楽しみだ。

「いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる、★★地区」

※地区によって、立地環境や施設の状況、近隣事業者の数、現在の利用状況など、取り巻く環境は様々であり、難しい面もあるかもしれませんが、ご了承ください。